

190年

初平元年（漢）

皇帝

劉協（漢獻帝）

皇后

（空位）

皇太子

（空位）

三公

相国：董卓(前司空・189~191)

太傅：袁隗(前後將軍・189~190)（死亡） 劉虞（道が途絶え王命届かず）

太尉：??（前司徒・189~190） 趙謙（前光禄勳・190~191）

司徒：楊彪（前司空・189~190） 王允(前太僕・190~192)

司空：荀爽（前光禄勳・189~190）（死亡） 仲*拂（前光禄大夫・190~191）

その他の要職

太僕：王允(~190) 袁基(190)（死亡）？

大司農：？

光禄勳：？ 趙謙？

執金吾：胡母班(~190)（死亡）？

大鴻臚：韓融

将作大匠：呉脩(~190)（死亡）？

少府：陰脩(~190)（死亡）？

地方官

冀州牧：韓馥

豫州刺史：孔?

?州刺史：劉岱

揚州刺史：陳温(190?~193)《三国志魏書武帝紀》

荊州刺史：王叡(~190)（死亡） 劉表(190~192)

主な事件

- ▶ 初平元年春正月、山東の州郡に董卓討伐をもって兵が起こる《後漢書孝献帝紀》 < [山東諸侯による董卓政権への反攻](#) >
- ▶ 正月辛亥（1月10日）、天下に大赦する《後漢書孝献帝紀》

- ▶ 癸酉、董卓は弘農王を殺す《後漢書孝獻帝紀》弘農王を閣上に置き、郎中令の李儒は藥と詐って酖毒を進める。王は唐? 及宮人と別れを惜しみ悲歌す。唐? に起って舞わさせた。座にあるものは泣き嗚咽す。享年18歳。《後漢書皇后紀靈思何皇后》
- ▶ 白波賊が東郡を寇略する《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 初平元年二月、弘農王を故中常侍の趙忠の成墳中に葬る。謚は懷王。《後漢書皇后紀靈思何皇后》
- ▶ 二月乙亥（2月5日）、太尉の??と司徒の楊彪が免ぜられる《後漢書孝獻帝紀》 #2
- ▶ 二月庚辰（2月10日）、董卓は城門校尉の伍瓊、督軍校尉の周毖#1（豫州刺史周慎の子）を殺す《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 二月庚辰（2月10日）、光祿勳の趙謙（太尉趙戒の孫）を太尉に、太僕の王允を司徒と為す《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 二月丁亥（2月17日）、長安に遷都す。董卓は京師の百姓悉くを驅り立て西へ入關させた。自らは畢圭苑に駐留する《後漢書孝獻帝紀》二月、董卓は兵が起こつたと聞き、天子を都長安に移し、洛陽に屯す。宮室を焼く。是時袁紹は河?、張?、劉岱?、橋瑁は酸棗に、袁術は南陽に、孔?は潁川にそれぞれ屯していた。韓馥は?にあった。董卓の兵は強く袁紹等は敢えて先進すること無し《三国志魏書武帝紀》
- ▶ 二月壬辰（2月22日）、白虹が太陽を貫く《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 三月乙巳（3月5日）、車駕が長安に入り、未央宮に御幸する《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 三月己酉（3月9日）、董卓は洛陽の宮廟および人家を焼く《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 三月戊午（3月18日）、董卓は太傅の袁隗（袁紹の叔父）、太僕の袁基（袁術の母の兄）を殺し、其の族を殺す。《後漢書孝獻帝紀》尺口以上の男女五十余人、皆獄に下され死んだと言う《後漢書孝獻帝紀に引く獻帝春秋》太傅の袁隗に代わって大司馬襄賁侯の劉虞を太傅にせんと徴すが、道が途絶え王命届かず《後漢書劉虞伝》
- ▶ 夏五月、司空の荀爽が亡くなる《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 六月辛丑、光祿大夫の仲*拂を司空と為す《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 大鴻臚の韓融、少府の陰脩、執金吾の胡母班、将作大匠の呉脩、越騎校尉の王瓌は關東に赴いた。後將軍の袁術、河内太守の王匡は各々捕えて之を殺す。ただ韓融のみ逃れた《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 董卓は五銖錢を壊して、小錢を鑄る《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 冬十一月庚戌、鎮星、螢*惑、太白が尾に於いて合わさる《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 是年、有司が、和、安、順、桓の四帝は功德が無く、称宗は宜しくないと奏した。また恭懷、敬隱、恭愍の三皇后は正嫡非ず、称后は適当でないとし、尊号を除くよう請い、可とされた。注に引く、和帝は穆宗、安帝は恭宗、順帝は敬宗、桓帝は威宗を号していた。また和帝の母梁貴人は恭懷皇后、安帝の祖母宋貴人は敬隱皇后、順帝の母李氏は恭愍皇后と尊んで言っていた。《後漢書孝獻帝紀》
- ▶ 孫堅は荊州刺史の王叡を殺す。また南陽太守の張咨を殺す《後漢書孝獻帝紀》初平元年、長沙太守の孫堅は荊州刺史の王叡を殺す。詔書をもって劉表を荊州刺史と為す《後漢書袁紹劉表列傳》王叡は見て驚き私に何の罪があるのかと問うた。孫堅は「座して知るところ無いことだ」と言って迫った。王叡は金を飲んで自殺した《後漢書袁紹劉表列傳に引く??》
- ▶ 是年、伏氏は長安遷都に従い、掖庭に入って貴人となった。《後漢書皇后紀獻帝伏皇后》

初平年間

- ▶ 獻帝の初めとして、陳国王劉寵は義兵が起こると、兵を率いて陽夏に屯す。自ら輔漢大將軍を称した。国相で会稽郡の駱俊は威恩があり、時に天下は飢荒し、鄰郡の人は多いに之に歸した。後に袁術が陣に兵糧を求め、駱俊が拒絶すると、袁術は憤り、刺客を遣わして俊及寵を殺した。陳はこれによって敗れた。夫人姫妾の多くは丹陽兵や烏桓兵の略すところとなったという。《後漢書孝明八王列伝陳敬王羨》

誕生者

死没者

王叡（荊州刺史）

張咨（南陽太守）

注

* [#1](#) 三国志魏書董卓伝では周毖は尚書である

* [#2](#) 後漢書董卓伝では、長安遷都を議した時、伍瓊、周?が固く諫めたが、山東で蜂起した人士を推挙したのはまさにこの二人で、二人に裏切られたと考えた董卓は遂に伍瓊、周?を斬る。同じく遷都を諫めた彪と?は恐懼し、董卓のもとを訪れ謝罪した。董卓は既に伍瓊、周?を殺して後悔しており、彪、?を上表して光祿大夫にするに留めた。

[PAGE TOP](#)

[189年 <<](#) [>> 191年](#)